真岡市行政評価システム

	<i>^</i>		
評価対象年度	令和6	年度	

**事務事業マネージメントシート** 作成日 令和7 年 03 月 08 日

事務事	業名	│日本語初期指導員派遣事業					担	当			教育委員	会学	校教	育課			
政策	名	1	「人づくり	」~豊かなこころアップ!~			□ 総	総重 (総合	画信	重点事業)	;	画新規事業)	)				
施策	名	3	国際化に対	がした教育	らした教育 アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			□ 単	妣(総合	戦略	拡充事業)	i	戦新 (	総合戦	戦略新規事業)		
関連個別	別計画									1 -	単年度の				<b></b> \		
法令标	根拠							事業	期間	1 —	_	施(開始年			年度~)	左座)	
予算		1	-般会計	10.教育費	10.教育約	務費	1.教育振興費			<u> </u>	」期間限定	複数年度(		#	·度~ 	年度)	
予算																	
予算	科目	A TROOT	<b>*</b>		*********	3 <del>**</del> 44 /+ 44	安心して真岡市の学校での	\ L\ \ T \ = 4/1	14 > 4 = 7 L		7		N:::::::::::::::::::::::::::::::::::::	m+4-			
事業	概要	7110-	26 J. LTN				XVV CARIBOTAL CO	)				- 24 <del>6-</del> 11 (160 m)		×1150			
1. 現物	犬把握の	部 (1)	事務事業 <i>0</i>	O目的と指標													
①手段						④活動:	指標(事務事業の活動量										
6年度実 派遣依頼		<b>が児童生</b> 征	<b>E数 10人</b>			-	名称			単位	3 年度(実績	4 年度(実績	5 年	度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
### <b>=</b> 1000		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				アー外	国人児童生徒就学者数			人					297	300	
						1											
7年度計	<u></u>					ゥ											
派遣児童	直生徒数	ο I ( 2Π#	9投資は8割粉が	『上阳120時間以中の』	日帝什么〉	ļ											
令和6年度継続 9人(初期指導時間数が上限128時間以内の児童生徒) 令和7年度新規 随時学校からの派遣依頼により決定					□里土1处丿	エ											
						ļ											
						オ											
				*人や自然資源等		⑤対象:	指標(対象の大きさを表 タ称	ず指標)	の推移	単位	2 年度(宝績	) / 年度(宝線	) [5 在	度(宝績)	6 年度(実績)	7 年度(貝込)	
日本に来て間もなく日本語を話せない外国人児童生徒				名称 :: ア:派遣対象児童生徒数				人	3 +12 (>(1)	7 7 7 10 (20)	0 3 +	<u> </u>	10	20			
											-						
7 9						1											
						ڻ ر											
						<sub> </sub>											
											-						
0 ÷ m	/= o = *		- 112 - 112	<del>+</del>		オ			I de a forte	0.14.1	<del>-</del>						
			、対象をどう ∈徒への日本語		。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	6成果	指標(対象における意図 名称	เรกกร	「家の程度)			1) 4 年度(実績	5 年	度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
日本語を話せない児童、生徒への日本語初期指導の充実を図ることで、一日でも早く普通教室でその他の児童生徒と一緒に教育活動や教科学習に参加できるようにする。				ア日	本語が理解できるようになっ	た児童生行	走数	7					1	10			
										-							
				1													
				,													
						ļ											
						I											
												-					
						オ											
(2) 総事業費の		D推移 単位 3 年原			3 年度	度(実績) 4 年度(実		2績) 5		年度(実績)		6 年度(実績)		<b>[</b> )	7 年度(見込)		
投   業   源   入   費   内		国庫支出金    千円		千円	千円	0		0			0			0		0	
			県支出金	千円		0		0			0			0		0	
	業 源		地方債	千円		0		0			0			0		0	
	費   内.   訳		その他	千円		0		0			0			0		0	
	'	一般則		千円		0		0			0			537		960	
		事業費	計(A)	千円			0		0		0	537			960		

## \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 2. 1 次評価の部 ①政策体系との整合性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か? (評価理由) 日本に来て間もなく日本語を話せない外国人児童生徒が、安心して真岡市の学校での生活を始められるよう適切な支援を行うことは、施策体系に結びついていることから妥当である。 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 □ 見直し余地はない □ 見直し余地がある 市が事業に関与する必要があるか? (評価理由) 真岡市民である外国人児童生徒が日本人児童生徒と同じように学校で学べる環境づくりは、市教育委員会が行う べき事業であり妥当である。 ③対象と意図の妥当性 ■ 対象・意図を見直す必要はない ■ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か? (評価理由) 対象は、市内全小中学校を対象としているため、適切である。 日本語を話せない児童、生徒への日本語初期指導の充実を図ることを目的としており、意図を限定・追加するこ とについては適切である。 ・対象を限定・追加する必要があるか? ・意図を限定・追加する必要があるか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるかどうか?ない場合の理由は適切か? (評価理由) ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? 令和6年度からの事業で、現在のところ学校の派遣依頼に応じて必要とする言語の指導者を派遣することができているため、成果の向上の余地はない。 ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ■ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名: ・類似事業はないか、統合や連携はできないか? ■ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名: ■ 類似事業はない (評価理由) 類似事業はなく、統廃合・連携できない。 ⑥事業費の削減余地 □ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか? (評価理由) ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか? 令和7年度予算では、令和6年度の実績をもとに積算根拠を整理し事業費を削減したところであり、これ以上の事業 費削減はできない。 効率性評価 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性) □ 統合 □ 継続 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 課題、課題の克服の方向性 引き続き、すべての外国人児童生徒が一日でも早く学校生活が送れるよう、指導員の適正配置に努める。 低下 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 成果 維持 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大

□ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)